



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION



愛知教育大学 未来共創プラン

2 1 2 1
未来の教育を共に創る



はじめに

2019年9月、学長選挙に立候補した折に「聴き合い 前進！」をモットーに掲げました。2020年4月、学長就任後、早速、「聴き合い 前進！」を実行し、教職員と共に半年間で『未来共創プラン』の原案を作成しました。その後、10か月にわたり、県内54市町村の教育長の皆様を訪問し、このプランを説明してご意見をいただきました。その際、各市町村の課題を伺い、それに関わる大学の取り組みをお話しました。まさに、「聴き合う」ことができた有意義な時間でした。これを未来の教育を共に創るため互いに「前進」する機会としていきたいと思ひます。

私たちは、皆様との共創により、子ども一人一人の可能性を開花させ、未来へつなげるための資質・能力を備えた教師や教育を支える専門職の養成、地域の課題解決や現職教員等に充実した研修の場を提供できる新しい時代の教育大学を目指しています。その一つが、このプランの戦略1「子どもキャンパス構想」です。学生や教職員等が工夫して、子どもが楽しみながら学べる機会をより多く提供し、多様な可能性を秘めた子どもの素晴らしさをみんなで実感したいと思ひます。

学長 野田敦敬



- ①先進的で「巻き込む、つながる」リーダーシップに期待
- ②「子どもキャンパス」に期待
- ③「教職の魅力共創・発信」に期待
- ④「教育リソースデータバンク」の活用期待
- ⑤教育に特化したスクールカウンセラー／スクールソーシャルワーカーに期待
- ⑥附属学校園が公立学校等のモデルとなることに期待
- ⑦地域連携・SDGs・GIGA対応に期待
- ⑧外国人児童生徒支援リソースルームに期待

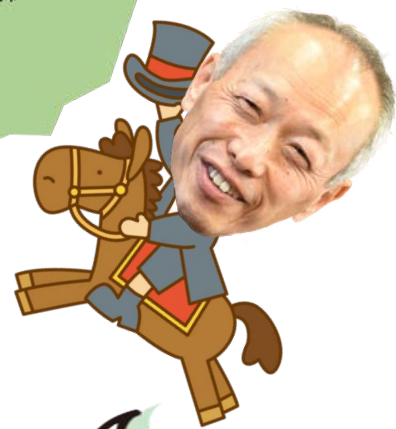
愛教大への期待

- ①教員採用試験の受験率の低下
- ②教職大学院に進学する魅力やメリット
- ③今後の教員研修（管理職のマネジメント力・ICT活用指導力の向上）
- ④外国人児童生徒への日本語教育
- ⑤特別な支援を必要とする児童生徒への対応
- ⑥教育実習や学校体験活動の在り方
- ⑦包括協定を結んだ後の連携協力の在り方
- ⑧休職する新任教諭や保護者対応での苦勞
- ⑨地元出身の教員減少

共有した課題



愛知県内54市町村の教育長の皆様に会いに行きました！



各市町村の課題を共有しました！

未来共創プランを説明し、協力をお願いしました！





戦略1 | 子どもキャンパスプロジェクト

2021年度プロジェクトメンバー 真島聖子／小塚良孝／樋口一成／縄田亮太／成瀬麻美／西野雄一郎／樋口真二／稲垣匡人



目的

大学及びその周辺地域を「学び」と「遊び」を一体化できるエリアとして、実践フィールドと実践プログラムを提供します。



活動内容

2021年12月19日(日)愛知教育大学未来共創プラン戦略1「子どもキャンパスプロジェクト」の試行的な取組として、近隣の小学生を本学に招いて「あつまれ！子どもキャンパスin愛知教育大学」を開催しました。小学生89名、大学から106名(学生97名、教職員9名)の合計195名(保護者を除く)が参加しました。

子どもたちは「人形劇をみにいこう！」「竹チップでカブトムシを育てよう～冬の幼虫探し～」「めざせマジシャン！マジック体験教室」「ニコニコ門松を作ってみよう」「竹と竹林のことを考えながら、楽しい遊び道具や役に立つものを作ってみよう」「北極も目じゃない！超低温の世界！」「3Dプリンタでつくろう！オリジナルしおり」「私たちの暮らしと安全を守る(三河地震からわかること)」「ダンスを観よう！今年限りの全国ダンス作品発表会」の9つのプログラムのうち、2つのプログラムを選択して体験しました。



活動内容

イベント終了後に行ったアンケートでは小学生89名のうち69名から回答を得ることができました。子どもたちからは「オリジナルの門松が作れて良かった」「人狼のダンスがかっこよかった」「カブトムシの幼虫をはじめて触った」、保護者の方からは「身の回りの物でできるマジックは家でもやれそうです」「学生達がすごく親切で丁寧だったので子どもが喜んでいました」などの感想が寄せられました。

なかでも「子どもが普段できないことを体験することができた」「大学の先生の説明がわかりやすかった」「大学生のお兄さんやお姉さんと楽しく学んでいた」「普段やれない事ができるし、大学生とふれあう機会が楽しかった」といった感想については大学で開催したイベントだからこそその評価であったと言えます。

イベントは小学校1～6年生を対象としましたが、7割以上が小学校1～3年生の低学年の児童でした。また、イベント開始前に刈谷市北部の小学校を中心に参加を募りましたが、当日参加者は刈谷市内在住者が約6割、刈谷市以外の愛知県内在住者が約4割となりました。さらに、機会があれば次回のイベントに参加したいか聞いたところ、9割以上の児童が参加したいと答えており、イベント自体の満足度と期待度は非常に高いものでした。





活動内容

また、参加した学生97名にもアンケートを行い、うち47名から回答を得ることができました。学生からは「子どもたちの柔軟な発想力や創意工夫に驚かされた」「今回子どもたちとふれあったことで子どもが好きだということを改めて自覚した」「魅力的な授業を作れるようにこれからも工夫していきたい」といった感想が寄せられました。

今後、教職に就くことを希望する学生のまなざしとして「教育実習では中学生を相手にする対応を身に付けてきたが、小学生を相手にした時に話を振ってあげられなかったり、警戒心を解いてあげられなかったりと自分に足りないコミュニケーションについて振り返ることができた」「様々な学年の子どもたちを同時に見て発達段階による違いに気づくことができた」「保護者とも関わることができ、支援の視野が広がりました」等の回答があったことは学生にとっても実りある体験だったと言えます。

子どもたちと関わった感想を聞いたところ、9割以上の学生が肯定的な感想を持っていました。また、教師や教育支援職としての使命感や責任感が高まったか聞いたところ、こちらも9割以上の学生が肯定的な感想を持っていたことから、今回のイベントが教師や教育支援職を目指す学生に良い影響を与えていると言えます。今後は、これらの活動がどのような意識の変化をもたらしたのか、どのような活動が良い影響を与えたのか等を明らかにしていきたいと考えています。

当プロジェクトでは「子どもと共に、学生と共に、社会と共に、附属学校園と共に、未来の教育を創ります」というビジョンを実現するため、今後も積極的に地域の子どもたちを受け入れていきます。

子どもキャンパス開催に伴い、チラシを作成・配布しました。

あつまれ! こどもキャンパス
in 愛知教育大学

開催日時 **2021年12月19日(日)**
13:00 ~ 16:00 (12:30受付開始)

会場 **愛知教育大学** 受付:AUEスクエア

入場無料
事前申込
先着順

当日のスケジュール
13:00 学長挨拶
13:10 概要説明・会場移動
13:30 プログラム実施(1回目)
15:00 プログラム実施(2回目)

※注意事項
2つプログラムを合わせたコースを12コース御用意しました。各コースの定員は8名です。定員を超えた場合はキャンセル待ちとなります。キャンセルが発生した場合、後日参加可能である旨をメールにてお知らせします。プログラムには保護者も同伴いただけます。車での来場も可能です。新型コロナウイルス感染症の影響で中止となる場合もありませんことを御了承ください。

◇ 詳細及び申込は裏面をご覧ください

問合せ先:愛知教育大学国際交流センター 子どもキャンパス担当 TEL:0566-26-2175 E-mail:kodomo@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

※参加学年を指定するものではありません。どの学年でも参加いただけます。

• 低学年向けプログラム※

- 人形劇をみいこう!**
映画、アニメ、読み聞かせいろいろな感動がありますが、人形劇を見たことがありません。昔ながら人形劇の魅力を伝えてあげよう!と、皆さん人形劇の魅力を伝えてあげよう!と、皆さん人形劇の魅力を伝えてあげよう!
- 竹チップでカブトムシを育てよう ~冬の幼虫探し~**
大学のキャンパスではちよと意外なところにもカブトムシの幼虫を見つかることがあります。それが竹チップの山。
- めざせマジシャン! マジック体験教室**
イタリア国際大会優勝を持つマジシャンが、すぐにできるマジックをお伝えします。お土産マジックもあります。見てびっくりする本格的なマジックショーもご用意しています。

• 高学年向けプログラム※

- ニコニコ門松を作ってみよう**
笑顔の門松を作ってみませんか? キャンパスの中心にある材料で自分だけの門松を作ろう!
- 竹と竹林のことを考えながら、楽しい遊び道具や役に立つものを作ってみよう。**
切り出した竹を使って、好きなものを作ります。竹と土、花びら、ワラ、糸、紙、糊、竹のこぎらなどを手定めています。
- 北極も目じやない! 超低温の世界!**
液体窒素を使って様々な物を冷やして変化を観察します! その温度は驚きの○○℃! この機会を見逃すな!

• 学年共通プログラム

- 3Dプリンタでつくろう! オリジナルしおり**
パソコンと3Dプリンタを使って、「オリジナルしおり」を作り、持ち帰りていただきます。参加お待ちしております!
- 私たちの暮らしと安全を守る (三河地震からわかること)**
地震が起きたとき、あなたはどうしますか、辛いことに。この地域はここ数年大きな地震がありませんが、三河では大きな地震がありました。三河地震のお話を地域の方から聞いて知ることも、どう備えるか、楽しみながら考えてみましょう。
- ダンスを観よう! 今年廻りの全国ダンス作品発表会**
全国から14大学が集まり、21作品のダンスを発表します。13:30~15:00は観覧と作品展示のみ。15:00~16:00はダンス発表会です。発表会ではプロダンサーの作品を観覧します。15:00~16:00はダンス発表会です。発表会ではプロダンサーの作品を観覧します。発表会ではプロダンサーの作品を観覧します。

• 予約申込
QRコードよりお申込みください。
締切:12月12日(日)
本学からも申込できます。
<https://www.aichi-edu.ac.jp/event/2021/12/19.html>

• 学内MAP

▲表面

▲裏面

プロジェクトの一環としてクラウドファンディングを立ち上げました。

愛知教育大学 子どもキャンパス構想 ~馬術部:クラウドファンディングへの挑戦~
子どもたちに「馬(サラブレッド)とのふれあい体験会」を提供したい

ご支援をよろしくお願いいたします!
目標金額 100万円
募集期間 2022年2月1日~3月31日

—プロジェクト概要—
子どもたちにもっと馬について、そして馬術について興味を持ってもらいたい。生き物とのふれあいを通じて命の尊さや温かさを感じてほしい。

—プロジェクトリーダーからのひと言—
はじめまして! 愛知教育大学馬術部主将の鈴木拓海と申します。私たち馬術部員が通う愛知教育大学はその名のとおり「教育」に特化した大学です。「この大学の学生として、そして馬術部の部員として、子どもたちの豊かな学びの場を作りたい。」という強い思いを持って活動しています。この活動を安定して開催する意思を、愛知教育大学馬術部員が人と馬、地域と大学が密接に関わり合うための拠点となるため、そして子どもたちの笑顔を見るために皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

愛知教育大学 教育学部社会専攻2年生 馬術部主将 鈴木拓海

本プロジェクト詳細およびご寄附はこちらから!
<https://readyfor.jp/projects/84093>

『子どもたちに「馬(サラブレッド)とのふれあい体験会」を提供したい』

『子どもキャンパス構想とは』
2021年3月に策定した本学の中期ビジョン「愛知教育大学未来共創プラン」の一つの柱で、自然豊かな本学のキャンパスや教職員・学生の多様な専門性を活かして、子どもたちに「あそび」「学び」を一体化したプログラムを提供するものです。

愛知教育大学 子どもキャンパス構想
竹チップで子どもたちにカブトムシに触れる体験を!

クラウドファンディングにご支援をお願いします!

募集期間
2022年2月1日~3月31日

プロジェクト詳細およびご寄附はこちらから
(手続について裏面に詳細あり)
<https://readyfor.jp/projects/84093>
QRコードからも

2021年3月に野田敦敬学長が策定した中長期ビジョン「愛知教育大学未来共創プラン」の一つで、自然豊かな本学のキャンパスや教職員の多様な専門性を活かして子どもたちに「あそび」「学び」を一体化したプログラムを提供するものです。

プロジェクトの概要
コロナ禍で実体験が減った子どもたちに体験活動を通じた学びを届けたい!
~竹チップでカブトムシやクワガタが育つ自然環境をつくろう!~
①子どもたちにカブトムシやクワガタを通して生き物の素晴らしさを体感してもらおう
②放置された竹林の竹をチップに加工して森にかえすことで地域の生態系を維持する
③教職や教育支援職に就く予定の学生に子どもたちとふれあう貴重な機会を提供する

クラウドファンディングについて
◆支援コース ¥5,000 ¥10,000 ¥30,000 ¥50,000 ¥100,000の5コースご寄附をいただいた方には支援金額に応じて心ばかりですが感謝のギフトをお届けします。
例)感謝の手紙、活動報告書、愛知教育大学オリジナルキャラクターグッズ、カブトムシやクワガタに触れるイベント優待券
◆目標金額 100万円
◆寄附金の使途
子ども向け飼育セットや竹チップ加工用機械の購入、イベント時の保険料等に充てます。

愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

[担当]国際交流センター 子どもキャンパス担当
TEL 0566-26-2175
E-mail kodomo@m.auecc.aichi-edu.ac.jp



戦略 2 | 教育のプラットフォーム構築プロジェクト

2021年度プロジェクトメンバー 真島聖子 / 小塚良孝 / 青山和裕 / 土屋武志 / 野平慎二 / 梅田恭子 / 小笠原有香



目的

教育リソースデータバンクを設置し、教育現場の課題解決に貢献する教育のプラットフォームを構築します。

メディアの複合利用によるステークホルダーとの教職の魅力・教育の未来共創

動画作成

学校・教育委員会



- ・授業教材
- ・研修教材
- ・学校の様子
- ・教師の姿

ケーブルテレビ事業者



愛知教育大学



- ・学生の姿
- ・大学の取組
- ・教員養成の様子

集約



愛知教育大学が様々な動画コンテンツを集約し、学校や社会が利用しやすいように展開

展開・活用

ウェブ公開



アーカイブ化



教育の未来共創のための社会インフラに



活動内容

西尾張シーエーティーヴィ株式会社(クローバーTV)が収録、作成したテレビ授業コンテンツを学内での視聴を目的として提供していただきました。

みよし市教育委員会と連携し、教員研修で活用できる授業動画のコンテンツを制作しました。

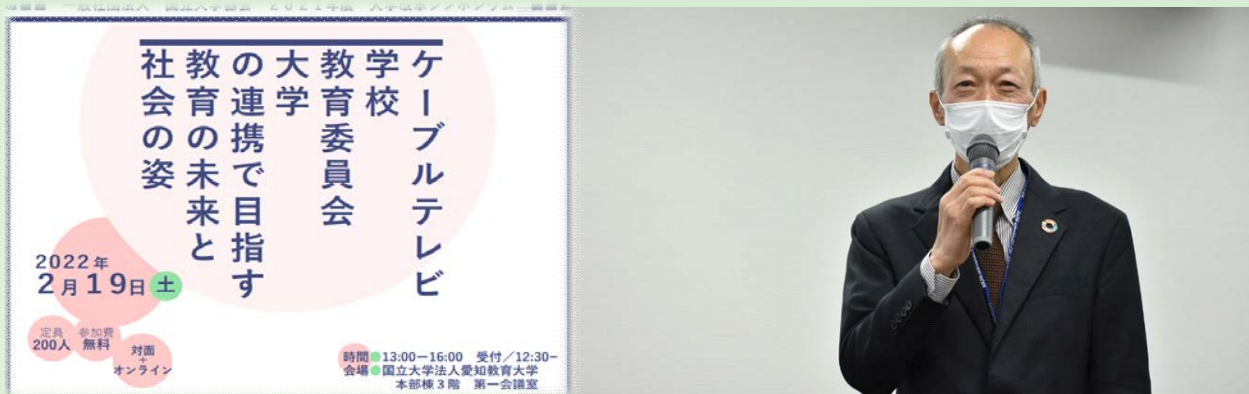
活動内容

2022年2月19日(土)に国立大学協会共催2021年度大学改革シンポジウム「ケーブルテレビ・学校・教育委員会・大学の連携で目指す教育の未来と社会の姿」を開催しました。

大学改革シンポジウムの目的

- ・国立大学が抱える様々な**困難や課題**を広く周知し、それらに対し、地域の皆様との対話の機会を設け、各地域における国立大学の役割や存在意義の理解を深め、共創する。
- ・愛知教育大学の困難や課題⇒**教員志望者の減少**
- ・問題意識⇒この要因は何か、この状況をどう改善するか。

学長による開会のあいさつ



小塚学長補佐による趣旨説明

昨年度のアンケート調査の結果の一部

「教職」からイメージすること
全回答者 6713名：学校教員 231名とその他の回答者6482名の回答率

対象	人	世の中	専門性	創造性	社会的評価	収入
学校教員	59.1	97.0	97.0	88.7	52.8	20.8
一般	96.1	90.9	87.9	56.8	72.1	36.2
対象	失業	長時間労働	健康リスク	ストレス	男女平等	休暇取得
学校教員	85.7	5.6	13.9	6.1	81.0	
一般	81.1	16.5	36.2	12.5	81.0	54.9
対象	保険年金	研修制度	キャリア	勉強会	仲間と協力	裁量
学校教員	92.2	70.1	36.4	61.0	93.5	45.9
一般	82.3	71.9	48.0	67.3	73.4	37.1

- ・イメージの差
- ・**プラス面** 教員>一般
- ・**マイナス面** 教員<一般
- ・教職イメージに社会で大きな差
- ・→正確な理解・情報共有が必要

https://cocreate.aichi-edu.ac.jp/wp-content/uploads/2021/03/preliminaryreport_ver2.pdf

活動内容

<第一部> 基調講演

津島市教育委員会の浅井厚視教育長と西尾張シーエーティーヴィ株式会社の青木啓社長によるコラボレーション企画「休校でも学びを止めない。子どもたちに授業を届けよう！」について紹介がありました。高台寺小学校の児童のみなさんは、実際にケーブルテレビで放映された授業動画を見た感想を発表しました。高台寺小学校の先生は、授業動画の作成がクリエイティブな授業開発につながったことを語りました。



刈谷市教育委員会の金原宏教育長は、子ども主体のいじめ防止活動に取り組んできた10年間の取組と心温まるエピソードを紹介しました。キャッチネットワーク株式会社の天野栄取締役は、子どもたちの自由な発想力と行動で自ら考え、キャッチと一緒に作る「GO！GO！スクールキッズ！」の番組紹介の他、プログラミング教育や防災啓発番組について紹介しました。刈谷市立朝日中学校の生徒会のみなさんは、いじめゼロに向けて生徒自身が深く考えて、主体的に学校生活の改善に取り組んだことを報告しました。生徒会サミットの様子は、キャッチネットワークが取材し、放映されました。



活動内容

常滑市教育委員会の土方宗広教育長は、常滑市教育委員会が推進するコミュニティ・スクールについて、「地域と共にある学校—学校と地域は対等なパートナー」となることについて語りました。知多半島ケーブルネットワーク株式会社の松永光司社長は、地元に着した取材活動を通して、常滑市立南陵中学校の南陵クラブの取組を取材し、特集番組を制作していることを語りました。南陵クラブの生徒のみなさんは、自分たちの住む地域を元気にしたい！という思いを持って取り組む中で、地域の方々に感謝の気持ちと尊敬の気持ちが湧いてきたことを語りました。



< 第二部 > 意見交換会

子どもたちや先生は、どのような姿を地域や社会の人々に見てほしいのか、保護者や地域の皆さんは、どのような学校や子どもたちの姿を見たいのか、大学生は、教職についてどのように考えているのか意見交換しました。地域のみんなでよりよい教育とよりよい社会を共に創ることの意義を感じるシンポジウムでした。愛知教育大学は、共創の拠点としての役割を今後も担っていきます。





戦略3 | 教職の魅力共創プロジェクト

2021年度プロジェクトメンバー 真島聖子/小塚良孝/宮川貴彦/竹川慎哉/田口達也/小笠原有香



目的

よりよい教育の未来につながる教職の魅力を共に創り出し、発信します。

どんなものについても、どこに魅力を感じるかは人それぞれです。また、時代によっても変わります。本プロジェクトでは、教職の魅力も固定的、断定的に考えず、可変的で多様であるというところから出発します。

取組1

多様な立場における「教職の魅力」の現状把握

意見交換の場（フォーラム）をつくり、多様な立場の方々の教職に対する考えに耳を傾けていきます。また、全国の様々な方からアンケート調査を通して教職に対する考えを聞き、その分析結果に基づいて新たな「教職の魅力」を検討していきます。

教職の魅力は、教職従事者だけでなく、学校教育を取り巻くすべての人で共に創り出していくことで、よりよい教育の未来、教職の魅力向上につながるのではないかと本プロジェクトは考えます。そのような考えから「共創」をキーワードとしています。

取組2

本学出版会を活用した発信形態とコンテンツの構築

多様な教職の面白さや魅力を本学出版会から継続的に発信したいと思います。そのための叢書シリーズ（『教職の魅力再発見』（仮））を企画し、2021年度から刊行を進めます。

魅力は多面的で可変的である

教職の魅力共創

ステークホルダーと大学が一体となって、教職の魅力を共に問い直し、発信する仕組みの構築を目指すとともに、その土台となる「教職の魅力」の今を探ります。

魅力を「伝える」だけでなく「共に創る」

教員養成機関＝魅力共創のファシリテーター

教職の魅力の共創において、教員養成機関は黒子として、学校・教師への期待と地域の課題をつなぐ役割を果たすべきだと考えます。



活動内容

2021年11月20日(土)に「教職の魅力共創シンポジウム」を開催し、多様な立場の方々との意見交換を行いました。





教職の魅力伝えるリーフレット、動画コンテンツを作成しました。

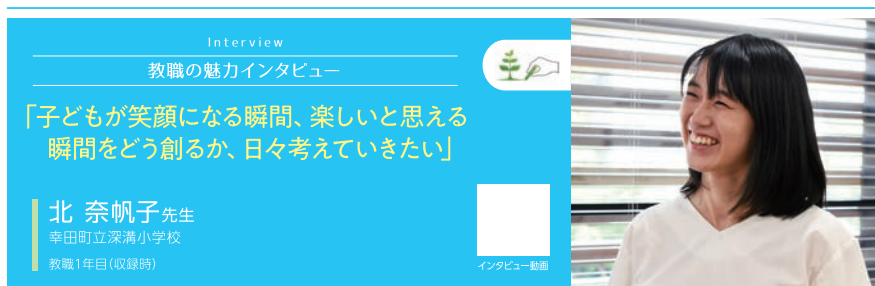


》》 中学校教諭の魅力ややりがい、難しさは何ですか

教師の魅力はたくさんありますが、一番の魅力は何といっても子どもたちの成長を目の前で見届けられることです。私であれば保健体育の授業を通して、子どもたちがいろいろな運動を楽しんだり技を身に付けたりできると、彼らの素敵な笑顔を見ることができます。しかし、「これをやれば全員ができるようになる」という魔法の指導は存在しません。十人十色の個性に対して、教師はできる限り適切な指導をしていく必要があります。そこが、教師の難しさでもありますが、やりがいでもあります。

》》 教師として大事にしていることは何ですか

私は「背中で語る教師」でありたいと思っています。私たち教師は「理想の子ども像」を基に、日々の生活指導や授業を行います。例えば、「整理整頓をしましょう」「字を丁寧に書きましょう」「自主勉強をしましょう」などの言葉を先生から聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。私は、医者の不養生・口だけの指導にならないように、子どもたちに指導する前に、まずは自分でやってみることを大切にしています。子どもは教師をよく見ていますから、これからも背中で語りたくと考えています。



》》 小学校教諭の魅力ややりがい、難しさは何ですか

一番は子どもがかわいいことです。小学校5年生の担任をしています。授業や休み時間で元気に活動する子どもたちを見ると微笑ましく思います。子どもへの指導や関係作りで悩むことも多いですが、子どもの楽しそうな姿や一生懸命な姿を見ると悩みも吹き飛んでいきます。小学校の担任は自分のクラスの子とかかわる時間が長いので、一人ひとりの子どもと向き合うことができます。その分担任の責任は大きいですが、子どものそばで一緒に成長できることにやりがいを感じています。

》》 教師として北先生が大事にしていることは何ですか

子どもの笑顔です。学校が楽しい、クラスが楽しいと思ってほしいです。学校生活のほとんどが授業の時間です。そのため子どもが「楽しい」「やってみたい」と思えるような授業を作れるよう日々研究をしています。自分が一生懸命考えた授業を子どもが楽しそうに受けている姿を見ると嬉しくなります。頑張ったよかった。次の授業も頑張ろうと思え、元気をもらいます。

》》 北先生にとって「教師」は、どのような仕事ですか

子どもに感動を与える仕事、ワクワクドキドキを与える仕事だと思っています。「そうなんだ!知らなかった!」「面白い」といった好奇心をくすぐる教材を与え、子どもが頑張る姿をそばで支えることができるのは教師ならではの役割だと思います。一緒に遊んだり、時には泣いたり、笑ったり、喜んだり、いろいろなことを子どもと一緒に経験し、感動を分かち合っていきたいです。



The Attractions of Teaching: A personal reflection by Noda Atsunori, president of AUE. (英語版)



教職の魅力共創プロジェクト #07 現職 教員インタビュー (國尾朱里先生)



教職の魅力共創プロジェクト #05 現職 教員インタビュー (磯貝啓季先生)

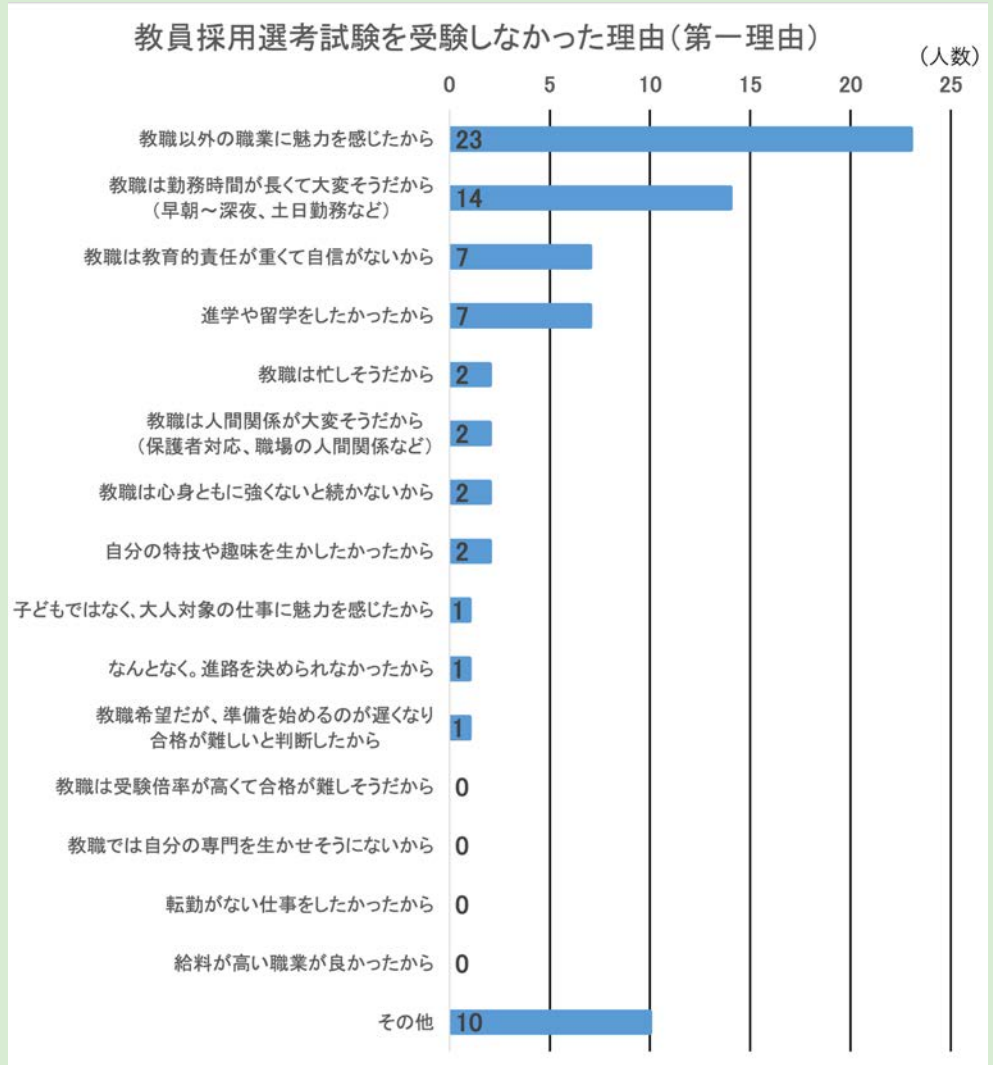


教職の魅力共創プロジェクト #01 学長インタビュー (日本語版)

活動内容

戦略3では、教職を取り巻く環境に関する調査研究を実施しています。2021年度においては、公立学校の教員採用選考試験の倍率低下の原因を探るために、教員採用選考試験を受験しなかった本学4年生を対象としたアンケート調査を、本学キャリア支援課と連携を取りつつ実施しました。2021年11月21日の時点で合計72名から有効回答を得ました。

右図は教員採用選考試験を受験しなかった第一の理由に対する回答結果です。「その他」の回答の内訳も含めて、理由として多くあげられた回答の傾向は次の二つにまとめられます。(1)教職以外の仕事への魅力と(2)教職の労働環境や教育的責任などの負担感です。前者は、入学前から保育士を目指して本学へ入学したという学生も含まれますが、入学後に教員志望ではなくなった学生においても高い回答率となっていました。同調査では、併せて教員採用選考試験を受験しないという意思決定に影響した事柄についても質問しました。その回答結果から、第一の要因として教育実習をあげる学生が最も多く33%という高い回答率でした。



更に、上記のアンケート調査に回答した学生の中から約20名を抽出して、進路変更の理由や教育実習を含む本学授業と進路変更選択の関係などについてインタビュー調査を実施しました。原稿執筆時点では調査は継続中であり最終的な分析結果は得られていないものの、教員採用選考試験を受験しなかった学生の回答には下記に示すようないくつかの共通点が見出されました。(1)大学生となり、教職以外の職業や社会に対する視野が広がることで、他の職業において自らのやりたいことや自らが望むライフスタイルの実現を見出すことができたこと。(2)大学入学前に教職に抱いていたイメージが漠然としていたことも一因である一方で、特に、魅力的な現場教員に憧れ教職に対する理想を抱いていたものの、入学後に受けた講義や実習体験を通じて教職の労働環境や責任といった現実を目の当たりにし、理想と現実との乖離から教職への不安や疑問を感じるようになったことです。また、教員採用試験を受験しないと決めた時期を教育実習後と回答する学生は多いものの、その場合でも実習前には他の職業の選択肢を考慮に入れていたことも分かりました。今後は、アンケート調査やインタビュー調査の結果を詳しく分析して、教員採用選考試験の受験率向上を図る対策を検討して参ります。



活動内容

多様な立場の方々から原稿を募集し、シリーズ叢書『教職の魅力共創』を刊行しました。

未来共創プラン 戦略3 教職の魅力共創プロジェクト

叢書企画「教職の魅力共創」刊行

シリーズ概要

愛知教育大学（主催「教職の魅力共創」編集委員会 委員長 野田敦敬）では、多様なステークホルダーが「教職の魅力」を共に高め、創り、共有していけるような場として、叢書シリーズを立ち上げました。

本シリーズには、学校教育や教職について広く考えを求める「社会共創編」と、各教科等の視点から多面的な教職や教材等の魅力を共創・共有する「教科領域編」があります。



シリーズ「教職の魅力共創」①

新たな学び・学校のかたち

著者	(社会共創編) 「教職の魅力共創」 編集：編集委員 監修：小塚良孝
発行日	2022年3月発行
定価	1,000円(税込)
出版	愛知教育大学出版会

本書は叢書企画「社会共創編」の第一巻です。以下の三種のトピックに関する20代～70代、職業や立場も様々な皆様の53の声が詰まっています。

- (1) GIGAスクール構想等に関わる論考
- (2) 新学習指導要領(カリキュラムマネジメント、アクティブラーニングなど)に関わる論考
- (3) 1, 2以外の視点から「新たな学び・学校のかたち」について考えた論考

ぜひ、本書を手にとっていただき、「教職の魅力共創」の輪を広げて頂ければ幸いです。

シリーズ「教職の魅力共創」②

未来の社会を共に創る社会科授業

著者	(教科領域編) 「教職の魅力共創」 編集：編集委員 監修：真島聖子
発行日	2022年3月発行
定価	1,000円(税込)
出版	愛知教育大学出版会

本書は叢書企画「教科・領域編」の第一巻です。執筆者は、愛知教育大学と附属学校の社会系教員です。第一部の実践研究編では、小中高の授業実践を通して、「未来の社会を共に創る」児童生徒の姿を提案しています。第二部の学問編では、社会系の学問を学ぶことが「未来の社会を共に創る」こととどのように関わってくるのか、学問のおもしろさや魅力を紹介しています。

本書を通して、社会科の授業づくりのおもしろさや学問を学ぶ楽しさ、教職の魅力が伝わり、もっと深く学びたいと思う高校生や大学生、教員、一般市民の方が増えることを企図しています。



戦略4 | グローバル化推進プロジェクト

2021年度プロジェクトメンバー 岩山勉/小塚良孝/北野浩章/オリバー・マイヤー/國府華子/野平慎二/アンソニー・ライアン
/幅良統/寺本圭輔/真島聖子/樋口眞二/稲垣匡人/高木遠慧/北絵理子

目的

協定校を始めとする海外の教育機関との連携を密にして、グローバル化に対応したプログラムを学部と大学院で整備します。

活動内容

(1) 国際的な学術交流の活発化に向けた制度の検討

協定校との学術交流を活発にするため、新たに客員研究員制度等の導入を検討しました。

(2) 日本学生支援機構による短期派遣・受入プログラムへの応募

毎年募集があり応募しているものですが、今年は戦略4を念頭に置いて内容全体を検討して応募し、アメリカ、ドイツ、韓国など8つの国・地域の協定校が行先となる7つの研修プログラムが採択されました。学部生だけでなく大学院生も対象にします。

(3) オンライン授業

コロナ禍で本学への留学が延期になっている協定校の学生に対して、オンラインで日本語の補講授業を実施しました。

(4) 協定校との学術交流(オンライン)

いくつかの協定校と共同研究、学術交流を行いました。以下、その例です。

- ・カンボジア国立教育研究所との健康教育に関する共同研究
- ・台北教育大学主催のバイリンガル教育に関する国際シンポジウム参加
- ・ジョグジャカルタ大学(インドネシア)主催の教育実習に関する国際シンポジウム参加

(5) 在籍している留学生の地域との交流活動(対面)

「カンボジア国立教育研究所研修員による教育交流会」の実施

日本人学生と外国人留学生の異文化相互理解を目的とした「インターナショナルカフェ」の一環として開催しました。始めにカンボジア国立教育研究所研修員がカンボジアの初等教育制度や教育・教員の現状について発表しました。その後、研修員のアイデアによりクイズ形式で質問

し、参加者は日本人学生と外国人留学生混合チームで回答しました。



刈谷市「ワールド・スタディ講座」

刈谷市立日高小学校へインドネシア出身の教員研修留学生2名を派遣しました。この講座は世界と日本の“ちがい”と“おなじ”を知り、日本の良さや課題をふりかえることを目的としており、小学5年生2クラス(80名)が参加しました。前半は参加児童にインドネシアについて知っていることを発表してもらい、その後に留学生が日本語でインドネシアの文化や生活習慣、学校生活について紹介しました。後半は参加児童を小グループに分け、日本および日本人の特徴を話し合い、インドネシアとの比較について留学生に発表しました。





戦略 5 | 大学・附属学校園実践研究プロジェクト



目的

附属学校園と教職大学院との連携を強化し、教育の実践的研究拠点を構築します。



活動内容

学長のリーダーシップのもと、附属学校にスタジオ教室を設置しました。附属学校の授業風景を全国に配信、双方向でやりとりができ、オンライン授業や教育実習、また研究発表会で成果を公開、教員向け研修の実施、教職大学院の授業実践など、無限の可能性を秘めています。

他の附属学校に先んじて、附属名古屋中学校にスタジオ教室が完成しました。教室の前後に設置した高性能カメラと移動式タブレットからの映像、また天井の小型マイクが拾うエリア毎の音声が入力され、教員が機器を駆使して調整した映像と音声が入力され、インターネットで配信されます。



生徒はすでに1人1台端末(chromebook)を使いこなしています。大画面ディスプレイでアイデアを共有し、教員が与えるヒントで表情を変え、仲間と議論して解を探していきます。

インターネットの向こうでは、全国の研究者数十人がこの授業を視聴しています。



附属学校の授業を全国へ。子どもの「？」が「！」になる瞬間を皆さんと共に！





活動内容

附属学校園の子どもたちと大学との交流実践

2021年6月7日(月) 全国初！オンラインによるジャガイモ掘り体験をしました！
幼児教育専攻の学生と附属幼稚園の園児がオンラインで交流しました。



2021年7月14日(水) 附属名古屋小学校2年生が校外学習で大学を訪問し、施設見学、授業参加を通して楽しく学びました。





戦略 7 | 教科横断探究プロジェクト

2021年度プロジェクトメンバー 野地恒有/上原三十三/小塚良孝/竹川慎哉/真島聖子/梅田恭子/岩田吉生/
西野雄一郎/松井孝彦/宮川貴彦/縄田亮太/後藤成美/山田紘輝

目的

教科等横断し、協働的に学び合う次世代型プログラムを開発するとともに、教育効果を客観的に検証する評価システムを構築し、学生の資質向上や大学の授業改善につなげます。

活動内容

「遠隔・オンライン教育」、「ICTを活用した、効果的な学習支援」、「探究的な学習を通じて協働的に学び合う教科等横断学習」について、調査研究を行い、次世代型教科等横断プログラムを開発します。

教員と事務職員により構成されたプロジェクト・チームで、「教科横断探究」の調査・研究の内容検討と学習会を、月1回のペースで行いました。

回	日程	内容
第1回	9月10日 (金)	事業の全体像と事業計画
第2回	9月30日 (木)	調査研究の内容検討1
第3回	11月2日 (火)	「教科横断」についての整理
第4回	12月1日 (水)	調査研究の内容検討2
第5回	12月28日 (水)	「教科横断・領域横断という概念」, 調査研究の分担計画
第6回	2月3日 (木)	「教科横断」「STEM」「STEAM」の研究状況
第7回	3月29日 (火)	「教科横断」のビジョン・カリキュラム・実践方法

ICTを活用した効果的な学習支援の実践研究として、2021年6月2日(水)佐久島しおさい学校へ訪問, 6月26日(土)子どもたちとアマモ植栽活動に参加, 9月6日(月)・7日(火)佐久島しおさい学校で遠隔・オンライン教育の実践を行いました。



一行目 名前
二行目 題名

「発表ノート」機能
使います。

「スカイメニュー」の
「書いてみよう」

〈詩を書くときのル

活動内容

学生との合同勉強会

「教科横断」「探究」をキーワードに、教育課程・カリキュラムマネジメントの観点から、プロジェクトメンバーと学生による合同学習会を開催しました。



先進実践校への訪問調査

プロジェクトを中心とした学校カリキュラムを実践する「きのくに子どもの村学園」を訪問し、先生方や子どもたちに取材を行いました。また、独自の教育課程を編成して実践する上越市立大手町小学校の研究会にオンライン参加し、資質・能力でつくるカリキュラムについて調査しました。

研究報告

「教科横断探究」の認識状況調査を実施しました。また、「教科横断探究」の実践事例、「教科横断の整理」を『6－論叢』に掲載しました。



戦略 8 | IR・教職協働プロジェクト

目的

IR部門を活用して得られた学内外の客観的なデータに基づき、戦略的な大学運営を行うとともに、教職員が協働して柔軟な組織運営を行います。

活動内容

(1) 教職協働による柔軟な組織運営に向けた研修会の開催

「教職協働による柔軟な組織運営」を推進するために、11月に全学FD・SD研修会を開催し、「未来共創プラン」【戦略1】を題材にしたワークショップ型の研修に教職員53名が参加しました。本研修で整理した課題解決策は、「子どもキャンパス」の実施に係るガイドラインの作成や愛教大グッズの制作、新規プログラムの開発などに活用しました。



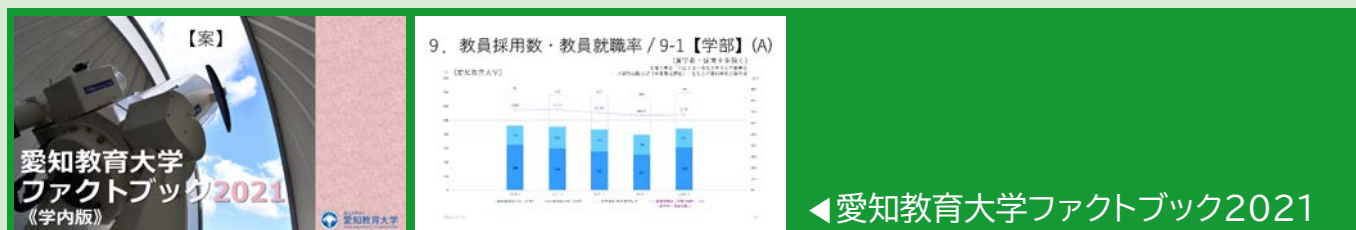
説明する小塚良孝学長補佐

教職員と一緒に考える
野田敦敬学長

グループワークの様子

(2) ファクトブック・基礎データの作成

第4期中期計画の評価指標を検証するために、基礎データを作成し、活用できるように進めました。データが出揃う12月から他大学の情報を収集し、そのデータを基にIR室会議で検討を行い、ファクトブックを更新した上で、公表しました。





戦略9 | 大学間ネットワークプロジェクト

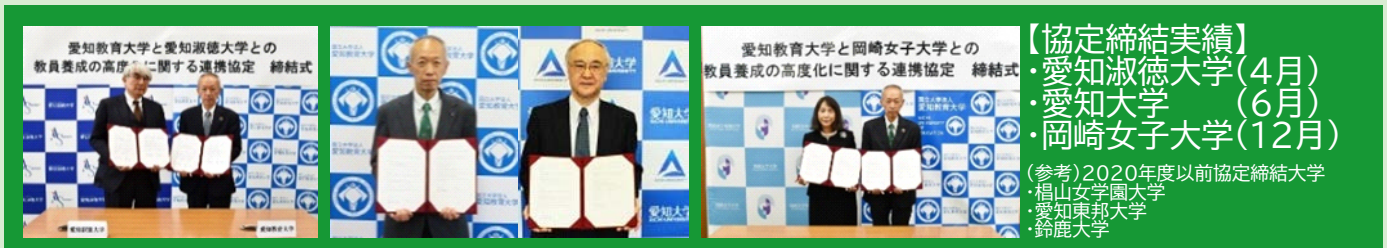
目的

国公立大学と連携協定を締結して、教職大学院を核としたネットワークを構築します。

活動内容

(1)「教員養成の高度化に関する連携協定」の締結

2021年度に3大学と連携協定を締結しました。協定締結している6大学のうち5大学の学生が、本学教職大学院へ2022年度に入学予定です。教育実践力を備えた高度専門職としての教員養成を目指します。



(2)「ICT活用指導力の向上」に関するネットワークづくり

GIGAスクール構想により1人1台端末が整備されたことなどを受けて、教師のICT活用指導力を向上させることが社会から求められています。

本学では先端技術を活用し、ICT活用指導力を高める科目の開発を行い、それらの成果を発信していくための取組を開始しました。2021年度は、FD講演会を実施し、協定締結大学や教育委員会へ配信しました。

①FD講演会の開催

- 10月14日(水) 『教員のICT活用指導力チェックリスト』を活用した教職科目等の開発及び授業改善
 - 12月8日(水) 1人1台時代の情報モラル教育～デジタル・シティズンシップの育成に向けて～
- ※配信協力機関＜公益財団法人パナソニック教育財団(2021年度協定締結)＞

②デジタル教科書勉強会の開催

- 2021年度に協定を締結した教科書会社と共催して、デジタル教科書勉強会を開催しました。
- ・大日本図書株式会社
 - ・東京書籍株式会社
 - ・株式会社帝国書院社
 - ・教育出版株式会社





おわりに

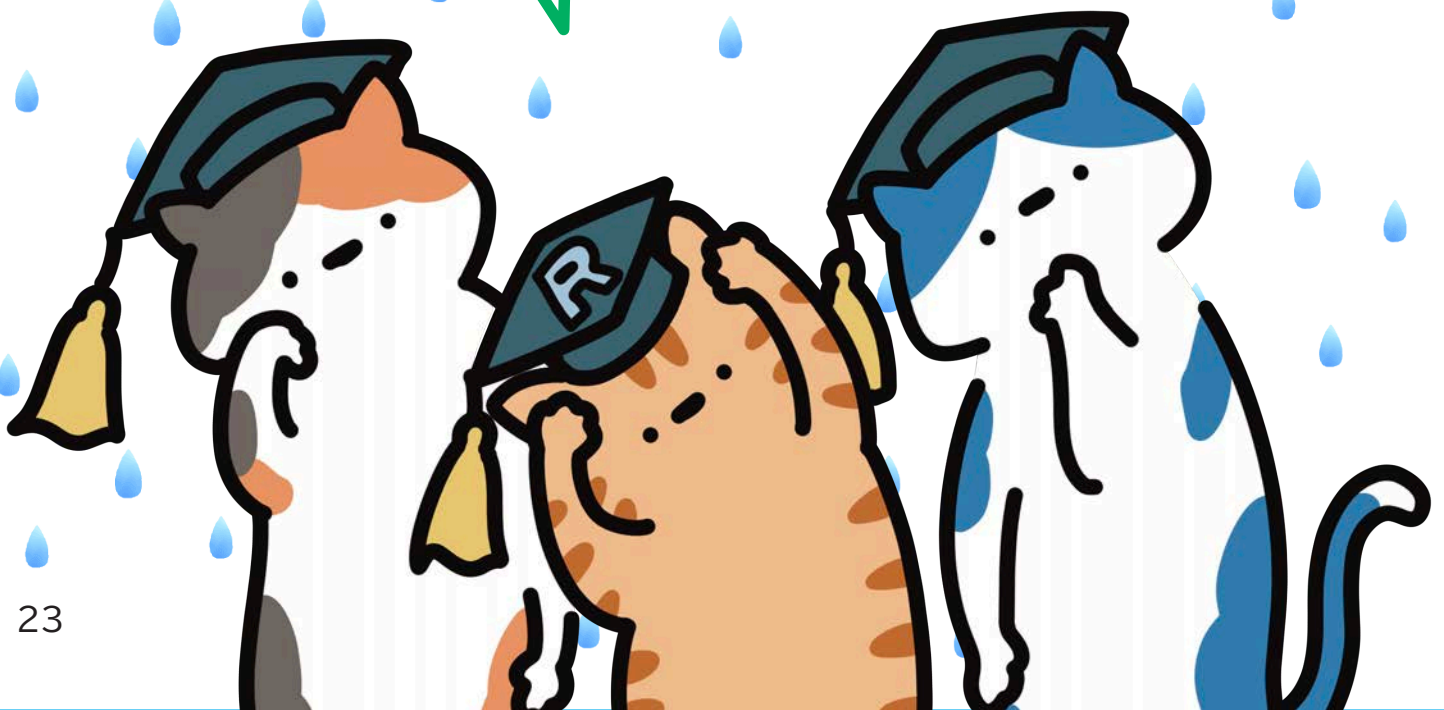
『未来共創プラン2021』は、未来の教育を共に創る土台づくりに取り組んだ一年をまとめました。この間、学内外の多くの皆様からご協力とご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

『未来共創プラン』のコンセプトは、「社会との共創」です。愛知教育大学は、子ども、学生、保護者、教職員、地域、社会、世界の様々な人々が集う共創の拠点としての役割を担います。

『未来共創プラン』の戦略1～9には、様々な立場の人々が参加し、未来の教育を共に創るために、試行錯誤や創意工夫を積み重ねながら、多様な実践を展開しています。このような実践をベースにして、『未来共創プラン』の研究では、様々な人々との共創により、学問分野を横断し、社会に役立つ具体的な価値を創造することをめざしています。

私は、『未来共創プラン』の成功の鍵は、ここに参加する人々が、自分の参加が決定的に重要であると信じて取り組むことだと考えています。将来の可能性を創り出すには、非常に大きなエネルギーを必要とします。『未来共創プラン』に取り組むことが、自分自身の仕事にとってもプラスになることを示すと同時に、早い段階で成果を上げられるように推進していきたいです。最終的には、社会との共創によって、よりよい教育がよりよい社会を創り、よりよい社会がよりよい教育を創ることを示し、教育大学の価値を高め、広く社会に貢献したいと思います。

真島 聖子（大学改革担当学長補佐）



『愛知教育大学未来共創プラン2021』

監修 野田 敦敬（愛知教育大学 学長）
真島 聖子（愛知教育大学 学長補佐）
小塚 良孝（愛知教育大学 学長補佐）

執筆者（五十音順）

上原三十三（保健体育講座）	戦略7
鈴木一成（保健体育講座）	戦略6
田口達也（外国語教育講座）	戦略3
宮川貴彦（理科教育講座）	戦略3
学術研究支援課	戦略2，戦略3
企画課	戦略8，戦略9
国際企画課	戦略1，戦略4
附属学校課	戦略5

デザイン 学術研究支援課

写真 広報課

愛知教育大学未来共創プラン2021

2022年3月31日 発行

監修 野田敦敬・真島聖子・小塚良孝
発行 国立大学法人愛知教育大学

印刷 ツゲ印刷



未来の教育を共に創る

愛知教育大学が目指す姿

- 子どもの声が聞こえるキャンパス
- 地域から頼られる大学



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

〒448-8542

愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

<https://www.aichi-edu.ac.jp/>